

I. 病気編




38.0℃以上の熱が出たとき

体温が 38.0℃程度で機嫌がよく、水分・食事がとれ、すやすや寝ているようなら、あわてず様子を見て、通常の診療時間内に受診しましょう。

ただし、症状が大きく変わった場合は医療機関を受診してください。

こんなときは、医療機関を受診しましょう。

- 生後 3 か月以下の赤ちゃんで、38.0℃以上の熱がある。
- 意識がおかしく、ぐったりしている。
- 下痢・おう吐を繰り返している。
- 顔色が悪く、あやしても笑わない。
- 呼びかけてもすぐに眠ってしまう。
- 呼吸がおかしい。
- 熱が出る前に、高温・多湿の場所に長時間いた。

症状の相談や、夜間・休日に受診できる医療機関の案内
ふなばし健康ダイヤル 24(40ページ参照)  0120-2784-37



ワンポイントアドバイス



熱は無理に下げる必要はありません。

熱は病気とたたかうために必要です。無理に下げる必要はありません。ただし、熱でつらい時は冷やしたり解熱剤を使うことを考えましょう。けっして、平熱まで下げる必要はありません。熱のある間は入浴を避けてください。



水分をしっかり補給させましょう。

湯ざまし、麦茶、乳幼児用イオン飲料水※、経口補水液※などを飲ませてあげましょう。



母乳やミルク、食事を欲しがる場合はあげましょう。

無理に与える必要はありません。食事は消化の良いおかゆ、うどんなどの炭水化物を与えましょう。

※ 経口補水液・乳幼児用イオン飲料水は薬局やドラッグストアなどで購入できます。